

12月17日（月）

在メルボルン日本総領事館との意見交換会

正午頃にメルボルン空港に到着した代表団一行はバスで市内に入り、先に到着していた吉村市長らと合流した後、在メルボルン日本総領事との意見交換のため、総領事公邸へと移動した。

到着後、松永一義総領事に公邸内を案内していただき、その後、意見交換会を行った。意見交換会の冒頭に、松永総領事より歓迎の御挨拶をいただき、続いて吉村市長、辻市会副議長からそれぞれ挨拶を行った。



総領事公邸の中庭の様子

【松永一義総領事 挨拶要旨】

今「おおさか」が熱いと感じている。最近では大阪が万博の開催地に決まり、大阪出身の本田圭祐選手はメルボルンビクトリーFCで大活躍を見せている。来年は大坂なおみ選手が参加する全豪オープン、花園ラグビー場で行われるラグビーワールドカップ、大阪で開催される日豪経済合同委員会など、「おおさか」がキーワードとなっている。

このタイミングにお越しいただいたことに感謝している。

【吉村市長 挨拶要旨】

温かい歓迎に感謝申し上げる。また今回の代表団の行程プランについても各方面から御支援をいただき感謝している。滞在中はメルボルンとの友好を深める活動に励みたい。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

意見交換の場を設けていただき感謝申し上げます。

万博、またこれから連続してさまざまな国際行事があるので、市長と共に大阪をアピールしていきたい。たくさんの方に大阪にお越しいただきたい。関空～メルボルン便ができれば両国にとって望ましいことである。メルボルンの人口が増えてきているそうだが、地下鉄の駅がまだ4駅しかないと聞いている。大阪メトロの技術が導入できるのであれば国際交流にもつながると思う。近いうちに是非大阪にもお越しいただきたい。

続いて、昼食を交えながら終始和やかな雰囲気の中、意見交換を行った。
松永総領事のお話の概要は以下のとおりである。

(観光プロモーションについて)

大阪とメルボルン間の直行便は無いが、東京とメルボルンの直行便ができたことで日本人の訪問が増えた（シドニーを経由される方が多い）。オーストラリアから日本に行く人も増えており、東京、大阪、京都、広島が人気である。

他府県のプロモーションと異なり、大阪のプロモーションは点ではなく面で紹介されるところが素晴らしい。（大阪から京都まではどれぐらいの距離であるなど、大阪を起点として関西圏全体の紹介をしている。）

初めて訪れる旅行者にはゴールデンルートを紹介すれば良いが、今後はリピーターに対してどのルートを紹介していくかが課題と思われる。

(姉妹都市について)

オーストラリア全体の姉妹都市は約400あり、日本の姉妹都市は108ある。その中でも大阪市との姉妹都市関係は広がりを見せている。高校生の交流に始まり、次が技術の結びつきである。今は第三弾に入っていて社会問題の解決に向けお互いに知恵を出しあっている。今年に入ってシスターシティーフォーラム（ビクトリア州内の都市が参加）が開催されたが、姉妹都市交流の活性化にどこも悩んでいる。フォーラムでは好事例として大阪市との姉妹ストリートの提携や医療提携が紹介された。

メルボルンでは人口が急増し、交通インフラ整備が喫緊の課題となっている。日本は鉄道技術やインフラは素晴らしいが、それ以上に既存の交通網の効率の良い活用方法が他国より圧倒的に進んでいる。そこが日本の貢献できるところと考えている。

(日本企業の進出について)

日本の漫画・アニメ・ゲームはオーストラリアでも人気があり、先行販売される日本語版が一番売れるなど、一大カルチャーとして盛り上がりを見せている。一方で日本企業の進出があまり見られず、非常にもったいない。日本のアーティストを呼んでイベントをしているのは中国企業であったりする。日本のコンテンツは素晴らしいが

プロモーションができていない。

(I R、カジノについて)

メルボルンの I Rは街に溶け込んでいるのが特徴である。大阪ではオーストラリアの I Rはあまり知られておらず、アメリカからのお客が多い。クラウンカジノは上手く統合されていて、ギャンブルの施設と捉えられているのではなく、市民の憩いの場となっており、レストラン、映画館、国際会議場などがあり、その中の一部にギャンブルもあるといった認識のされ方をしている。そのため訪れる客層もさまざま、子ども連れの家族が散歩で訪れたりもしている。運営会社がオーストラリアの企業であることも受け入れられた要因ではないか。

(移民等について)

一昨年の国勢調査で初めてアジア系の移民がヨーロッパ系の移民を抜いた。街中を歩いてもアジア系の方々を大変よく見かける。昨今は学校にも中華系の留学生が大量に押し寄せており、特に大学はほとんど中華系の人達で占められている。大学経営にとっては非常にありがたい存在で、ビクトリア州も観光と合わせて外国人留学生獲得に力を入れている。

(人口の急増について)

人口の急増にインフラが追い付いておらず、渋滞等を引き起こしている。また、一部で犯罪が増えているという声を良く耳にするが、統計上は逆で、警察の取り締まり強化もあり犯罪は減っている。一部のアフリカ系移民による強盗が散見されたことが大きな恐怖体験となり、メルボルンは危ないところだとイメージを作り出されているところがある。

また、人口と共にGDPも右肩上がりである。主な産業はLNGなどの資源関係が圧倒的で、次いで農産物である。

(オーストラリア人の気質について)

オーストラリア人はおおらかである。いいものがたくさんあるため、自分たちが一生懸命マーケティングして海外に売りに行かなくても海外から勝手に来てくれるといったことも影響しているのではないか。約 200 カ国から人の流入があり約 150 もの言語が溢れ、アメリカよりも遥かに多様性がある。そこからさまざまなアイデアが生まれ、Wi-Fi などの革新的な技術が生まれるが、技術を結び付けて世界に売るという面では弱い。

(超高層ビルを舞台にしたマラソン大会について)

メルボルンにはユーレカタワーという、あべのハルカスとほぼ同じ高さの超高層ビルがある。それぞれの超高層ビルを舞台に、同じような時期にマラソン大会（展望台を目指して非常階段を駆け上がるレース）が開催されているので、何かコラボレーションのようなものできないか。

（メルボルンにおける大阪の食文化について）

鉄板焼き屋は存在するが、大阪の粉もん文化を代表するたこ焼き屋やお好み焼き屋がない。初期投資に費用が掛かるのが進出されない理由のようである。



在メルボルン日本総領事館との意見交換



総領事公邸での記念撮影

メルボルン市主催 姉妹都市提携 40 周年記念夕食会

メルボルン市主催の姉妹都市提携 40 周年記念夕食会が、ザ・パビリオン（アート・センターメルボルン 8 階）にて行われた。

まず、サリー・キャップ メルボルン市長から御挨拶をいただき、歓談の後、吉村市長からの挨拶、またバンド演奏を挟んで辻市会副議長から挨拶を行った。なお、来賓としてオーストラリアのメルボルンビクトリー F C で活躍中の本田圭祐選手も訪れていた。

【サリー・キャップ市長 挨拶要旨】

本日はお集まりいただき感謝申し上げます。メルボルンを象徴するアート・センターで皆様をお迎えできることを大変うれしく思う。ここはオーストラリア最大規模の施設で、オーストラリアバレエ団、メルボルン交響楽団、メルボルンシアターカンパニー、オペラオーストラリアの本部でもある。



遙か昔の先住民の時代よりこの土地は人々が集まる重要な場所として機能してきた。今夜は皆様とここに集まり、メルボルン市と大阪市の 40 年に渡る友好関係を祝いたい。大阪市はメルボルン市にとって最も古く、そして最も大切な姉妹都市である。両市の絆は強く、そして深いものである。

大阪の皆様には特別な温かみを感じており、大阪市代表団をお迎えできることを大変光栄に思う。メルボルン市と大阪市は多くの共通点がある。両市とも港湾都市であり、発展と繁栄、そして卓越した教育制度、研究機関があり、他の都市に住む人々がうらやむ生活の質を享受している。また、民主主義と法の統治という価値観も共有している。グローバルなプラットフォームを共有し、また教育やビジネス、そして市民のために知識を共有することが両市の繁栄につながると思う。

今夜このように皆様と 40 周年を迎えることを心よりうれしく思う。

たくさん語りたことがあるが、時間もあるので 2、3 ハイライトしたい。まず一つ目に申し上げたいのは、メルボルンでは毎年クリスマスイベントとしてジンジャーブレッドビレッジで展示会を行っているが、私どもの大阪への深い愛情を表すため、今年はセンターピースに大阪城を設けている。吉村市長が私どもの代表団を迎えてくれた大阪城である。このジンジャーブレッドビレッジには毎年何千人もの客が訪れる。今年初めてメルボルン以外の建物が登場した。

この 40 年間で私どもは大変多くのことを達成してきたが、特に際立つものとして

ヘルスイノベーションを挙げたい。このプログラムを通じて5つのスタートアップ事業で大阪を訪れ、それぞれのカウンターパートと会って関係を強化してきたが、医療の分野をさらに強化する取り組みとしてロイヤルメルボルン病院と大阪市大病院と連携協定（MOU）を結ぶことになっている。両病院のこのすばらしいコミットメントにお礼を申し上げる。

これから数日の間、さまざまなプログラムが用意されているが、大阪市の皆様に多くの人に会ってもらい、さらにつながりを強化して頂き、長い将来にわたりこの関係が続くことを期待している。

もう一つ申し上げたいのが、最近達成された偉業についてである。大阪市が万博の開催地に決定したことである。おめでとうございます。これは大阪市を率いる皆様のビジョンと高い理想のたまものだと思う。これにより大阪市がさらに繁栄し、また名声も高まることと思う。私どももそのイベントに参加したい。

一番大切なことはここに全員で集まり、このすばらしい関係を祝福することである。大阪市に尊敬の念を抱いている。これからもこの関係がさらに続き、今までもいろいろなことを達成してきたが、さらに多くのことを達成することを願って挨拶とさせていただきます。

【吉村市長 挨拶要旨】

サリー・キャップ市長をはじめとするメルボルン市及び市議会議員の皆様、また松永一義在メルボルン日本国総領事、日本のスーパースターの本田圭祐選手、並びに御臨席の皆様、本日は、このように盛大に、また温かく、我々大阪市代表团並びに大阪市会代表团をお迎えいただき、大阪市を代表して心からお礼申し上げます。



大阪市とメルボルン市が姉妹都市という固い絆で結ばれて、40年の月日が流れました。私は初めてメルボルン市を訪問させていただくことができましたが、活気ある街並みや、スワンストンストリートやヤラ川沿いの美しい景観に感銘を受けている。

大阪市とメルボルン市とは、ともに「世界で最も住みやすい都市」に選ばれています。両市の姉妹都市関係を生かして、発展のための課題とビジョンを共有することで、さまざまな面で都市魅力の向上につながる交流を促進していきたいと考えている。

また11月23日、2025年万博博覧会の大阪開催が決定した。多くのメルボルン市民の大阪訪問を期待している。

大阪では6月に大きな地震があり、大きな被害を受けた。本田選手は大阪出身の有名なサッカー選手であり、先日のロシアワールドカップにおいて日本代表として活躍されたが、大阪の被災の復興のために日本代表選手に声を掛けて義援金を集めてくれた。ここで再び会うことができうれしく思う。サリー・キャップ市長からも被災時に温かいお見舞いの言葉をいただき感謝している。大阪とメルボルンの関係が今後ますます深まることを祈念している。

最後に、今回の訪問を機に、両市の友好関係がさらに深まることを祈念し、またメルボルン市のますますの御発展をお祈り申しあげて、私の挨拶とさせていただきます。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

このように暖かくお迎えいただき感謝申し上げます。

これまで両市が積み重ねてきた交流が姉妹都市提携40周年という節目を迎えたことは誠に意義深く、メルボルンでもにお祝いできることを大変うれしく思う。

過去40年間にわたる姉妹都市交流の輝かしい歴史と、その成果は、ここにお集まりの方々と両市市民の熱意とたゆまぬ努力のたまものであると、あらためて深く敬意と感謝の意を表する。

本年3月には、ケビン・ルーイ議員をはじめ、経済団体・企業等を含むメルボルン市代表団が大阪を訪れ、御堂筋とスワンストンストリートの姉妹ストリート協定を締結したところである。明日はその記念セレモニーが予定されており、スワンストンストリートを直接見ることを楽しみにしている。

また、この40周年を機に両市の交流をますます緊密なものとし、皆様方とともに、日本とオーストラリアの友好協力関係の発展に大きく寄与してまいりたい。

2025年には万国博覧会が大阪市の夢洲で開催される。これまでもオーストラリアからたくさんの方に日本にお越しいただいているが、2倍、3倍来ていただければ嬉しく思う。そのためにも現在、関西空港からシドニーへの直行便はあるが、是非とも関西空港からメルボルンへの直行便を出していかなければならないと思う。

また、企業間の交流も大事であるが文化の交流ももっと深めていかなければならないと感じている。本日の夕食会は素晴らしかった。すばらしい演奏、スピーチに感謝申し上げます。

大阪とメルボルン両市の今後ますますの発展と繁栄、御臨席の皆様の御健康と御活躍を祈念する。



その後、サリー・キャップ市長から吉村市長にメルボルン市の鍵が授与された。これはメルボルン市と友好関係にある相手に対し最大の敬意を表すものである。メルボルン市がこの鍵を授与するのは非常にまれなことであるとのことであった。



メルボルン市の鍵の授与

夕食会には、メルボルン市の産官学の関係者が出席しており、さまざまな立場の方々と積極的に情報交換を行った。また素晴らしい演奏もあり、会場は大いに盛り上がり、会話も弾み、終了予定時間を超えるほどであった。